



育兒叢談 (七)

○少年と映畫

——屢々問題になるが餘程注意すべき物——

その影響を考へよ

左の談話は内務省映畫檢閲主任田島太郎氏談として東京日日新聞に載せられたものである。活動寫眞に對する父兄の注意すべき點を指摘してゐるから特に轉載する。

最近の活動映畫に現れた傾向は西洋物では美人の肉體を現したいはゆるハダカ物が多くなつた。

殊に米國映畫にふえたので、その表現は運動競技ダンスの稽古、水泳の練習等に事寄せて、豊艶な肉體を露出して見せやうとしてゐる。體操學校を背景に使つたり、カフェーの中で水泳服でおどつたり、みだらがましいアバツシー・ダンスを見せたりするには風教上事に困るが、それが一層ひ

どくなつて來る傾きがある。日本物の映畫はヒネクれた思想のものと、演劇物が多くなつたが、これは大震災の影響だけでなく別に何か理由があると思はれる。大ずかみに考へて見ると、從來の演劇の立廻りは現實味が少なく現代の觀客には不満足でたまらぬところへ、澤正等が現れて時流に適した立廻りを見せて歓迎されたが、活動寫眞においては特にほんとうらしく見せると觀客に喜ばれ

る點から、自然に映畫の立廻りがすご味をおびて來た。そしてこれが客に受けるから次第に立廻りが長くなつてあるものは立廻りばかりで全巻を終つてゐるものさへある。要するに現實感の強い立廻りは直感的のもので、頭腦の疲れた人間や、生活難苦イライラしてゐる心者にはむしろ亂暴な活劇かみだらなものかの二つの流れでないとな面倒臭くて見てゐられないのに、日本物は風教を害する場面や極端な劍劇は檢閲でカットされるから遂にヒネクれたものを製作するやうになるのだらうが、この種の映畫製作は自己の満足のためとか或は思想がかたまつてゐなくて外國の小説にかぶれて、その思想を噛みくだく力がなくてすぐ作品に應用しようとする若い映畫監督の作品に多いが年長の監督の作品にはよほど考慮した者がある。これは少數である。これ等の映畫の傾向から考へて現在の活動寫眞、つまり興行用の映畫は一般の家

庭殊に、子供には面白くないと思はれる。上野陽一氏、紀平文學博士その他の心理學者の説では、現在の活動寫眞を若い者に見せるには非常に監督を要するといつてゐるが、實際活動寫眞そのものは多少衛生上の心配がある程度のもので、天文、農産、學術その他學校の教材としても非常に利益のあることが、織込まれてゐるが併し他の反面において非常に害毒の多いものである。例へば日本物に殊に多い殺人の場面が觀客には社會にありふれた出來事のやうに印象づけられこれを馴れると性格が殺伐になる。同様に淫猥な場面ばかり見馴れると道徳性が麻痺してくるから遂に危険人物になつて家庭のことは平凡で興味がなくなつて親の涙ある教訓も笑ふべきものと考へ違ひをして、社會經驗がないから活動寫眞を見て自分勝手の社會を造つてしまふからいくら意見をされても根性が片寄つてしまふ。だからわけて子供や若い者に興

行の活動寫眞をみせるのはよくないがもし觀せるなら年長の思想の堅實な立派な判斷力のあるシツカリした同伴者をつける必要がある。社會經驗の淺いものや根性のヒネクれた者は一度確信するところがたとひ間違つた確信であつても根強く持つから一身上だけでなく社會組織の上から實に大きな危険である。同伴者は書生だと寫眞にとらはれるから駄目で、近隣の人と一緒だと監督を忘れるおそれがある。結局一番よいのは両親とか學校の先生或ひは年上の兄弟なら無暴な考へのない者を同伴させるのが良策である。そして今一步進めて映画に對する豫備知識を與へてあらかじめ危険な場面の解釋等に注意して見せる必要があると思ふ。併し教育映画にはこの心配はない。

○寒さに向つて

赤ちやんの衛生

これは東京朝日新聞家庭欄に於て醫學博士高田義一郎の談として載つてゐたものであります。分り切つたことのやうであるが兎角實際は中々完全に行はれない赤ちやんの衛生について述べたものであるから特に轉載する次第であります。

寒氣の強い季節に生れた赤ん坊の手常として第一に注意すべき事は保溫の關係です。赤ん坊は大人にくらべると身體の容積の割合に、表面の面積が非常に多いのです。即ち皮膚の面積が目方の割合に廣いから、寒い時分には體溫を冷たい外界に奪ひ去られる事が大人よりも遙に著るしいです。然るに大人は自分一人で厚着をしたり、胸をかき合せたりするのに赤ん坊には全く之が出来ないばかりでなく、大人の身體は生理的にも體溫の調節

がよく出来るやうになつて居るのに反して赤ん坊にはこの調節が完全に行かぬ爲に、一層寒さに犯され易いのです。但しこの生理的の事は専門的になり過ぎますから説明を略します。それですから單に衣服に注意して風邪にかゝらぬやうにするばかりでなく、身體の中でも最も冷え易い手や足には特別の保温装置をせねばならぬ場合が多いのです。所が之によくコタツを使用する人があります。がコタツを使うと木炭が燃える際に炭酸ガスがどうしても發生してよくないばかりでなく、これまであまり注意されなかつた一酸化炭素といふガスが發生して非常に有害な作用をします。此ガスは吸入されると血液のなかにある「ヘモグロビン」といふものと化合して「一酸化炭素ヘモグロビン」といふものになる爲に、血液の中になくてならぬ必要なもので、全身の細胞を養ふ爲に最も必要である「酸化ヘモグロビン」といふものを破壊して

しまひます。そして一旦この様になりますと、この回復は薬品の服用等では却々困難であつて、長い間貧血状態で居たり、發育を妨げられたりしますし、重い場合にはもちろん死亡しますから十分注意せねばなりません。このガスは木炭の燃えかけの青いほのほの中に澤山ありますから、若し木炭を使用するならば十分火がおこつて眞つ赤になつてから、コタツや火ばちへ入れる事にせねばなりません。それから又このガスはガス會社のガスの中にも百分中五乃至二十五位といふ多量な割合に入つて居りますから、ガスを不注意の爲に部屋の中へ漏れさせないやうに氣をつけるが肝腎です。殊に赤ん坊に就ては、コタツを入れた布團が顔の上へ覆ひかぶさる様にせぬ事が肝腎です。その爲に赤ん坊が布團の中で窒息して居た様な例が決して少くない事を申添へて置きます。それからなるべくならば、コタツを用ひずに電氣コタツ又は湯

たんばを使用する事をお勧め致します。之ならば決して前のような懸念はありません。併し湯たんばに就て注意せねばならぬのは、昨今澤山用ひられる金屬製のもの等は非常に熱くなつて十分布片で包みましても直接手足に觸れると火傷を起し易いのですから、湯たんばは必ず手や足を十分延ばしても尙五六寸位の所に置かねばなりません。温くしたいといふ親心からあまり近づけると却つて危険に陥る事を御承知願ひます。火傷は何でもな
いものゝやうに考へる人が多いのですが、近い例では先日濱尾樞相のやうに大人でも皮膚の三分の一以上が火傷すれば、如何なる處置をしても助からぬ位でありまして赤ん坊ではコタツの爲に僅に足首丈けが火傷すれば如何なる處置をして助からぬ位でありまして赤ん坊ではコタツの爲に僅に足首丈けが火傷で水ぶくれになつた程度で、數時間の中に死亡してしまふものが非常に多いのです

之は火傷の爲に一種の毒素が皮下に發生して、急性の中毒を起す爲であつて、如何なる名醫の手でも救済は出來ぬ位恐ろしいものである事をくり返して置きます。溫度に次で注意すべきは濕度です。寒中は非常に空氣は乾きますし室内の火鉢や暖爐は特に之を甚だしくしますその結果は氣管支カタル等の原因となります。滿洲の冬はその著明な例であつて、私が先年同地に奉職中の經驗によれば滿洲の子供でへんとうせんがひどくはれて居ないのはほとんど無い位でありましたが、之から見ても寒中室内の濕度を等閑に出來ぬ事がわかります。それは室内を暖爐や火鉢の類で温める場合には、その上に金だらひのやうな口の大きいものに水を入れて載せて置く事を忘れないやうにするのです。さうすれば火熱によつて水分が蒸發して室内に濕氣が多くなりますし濕氣が多くなればへんとうせんが肥大したり氣管支カタルを起したりする機會

が非常に少くなるのです。寒中に風邪のの多い事は主として以上の點に原因しますし、赤ん坊の風邪はしばしば肺炎を起して短時日の中に生命をも奪ふ場合が多いのですから昨日のやうな季節に御誕生の方々にはこの上の御注意が何よりも必要と信じます。

○赤らやんの誕生調べ

——一時間に約六人——

市が調べた最近十三年間のお目出度い統計
市の統計課では東京の誕生統計といふ『お目出度い統計』を取つて統計課らしい前祝をした、その結果によると、最近の十三年に東京で産聲をあげた男の赤ん坊が二萬五千四百八十人、女が二萬四千九百五十七人、合計五萬四百三十七人の赤らやんが生れてゐて、市民の百人について二・六人

の子供が出來約十二組の夫婦の間に一人づつの赤ちやが生れるといふ、實に素晴らしいお目出度振りであつて、一日に割あてると百三十七・七人となり、一時間の間に約六人の赤ん坊が産聲をあげてゐるわけで一番澤山東京で赤ん坊が産れる月はお正月で昨年の正月は七千五百六十人生れ、次は三月、二月となりこの十一月は年中の第四位になつてゐて一年間の出産の約九分を占めてゐる。一番少いのは六月で二千六十三人である、尙全國的に見ると昨年の出産は百九十九萬八千五百二十人中百人中三・三七人の出産率になり、一日に五千四百六十人強一時間二百二十七人強の子供が生れてゐる。最近に全國で一番赤らやんが多く生れたのは大正九年でその後次第に出産が少くなつて來る許りでなく男の子が減る一方で、その上男子の死亡率が多くなるといふ、女生過剰の時代がいよいよ出現しさうな傾向を示して來た、大正九年十年に

赤ちやんが多いのは好景氣のため生活の安定を得て結婚する者の多かつたためで間もなく不景氣におそはれ年々結婚難に陥つて往く事を明確に數字が物語つてゐる。

〇子供室理想だけでは失敗する

朝鮮金剛山鐵道の取締役山内伊平氏の目白台の家に立派に造られた理想的小子供のお部屋が今は書生部屋になつてゐる。これに就て操子夫人の失敗談がある。また幼稚園や尋常小學の下級である一男二女のお子さん達が、夫人の隣室へお友達をつれ込んで、毎日遊戯で大騒ぎをなさるので、少しも落ちついた氣分になれないので一案を立て、丁度邸宅が前に早稻田一帯を眺望した目白台の傾斜の地にあるので、その傾斜を利用して、お座敷からは地下室であるが、前方の眺望の實によい場所へ理想的の子供室を新築に及んで、この部屋の

前にはきれいな草花が四季咲きほこる立派なガーデンを造つたりしてお子供さん達がこの部屋で遊ぶやうにいろ／＼機嫌をとつて見たところ、お子供さん達は決してこの立派な新築のお部屋へ行かないで、相變らず操子夫人の隣室で騒ぎまはつてゐるので、たうとう夫人の方で敗北して、子供室が書生部屋になつてしまつたので、同夫人が感じたことは子供が大きくなれば親のそばから離れて自由に勉強しやうとするが、尋常小學一二年か幼稚園の小さい子供は、どうしても親のそばにゐなければ安心してゐられぬものである事を感じた。そして親のそばにゐることが小さい子供は一番力強く感じてゐることを實際に知ることが出来て理想は大きな失敗であつたから、小さい子供の教育は注意すべきだといふのである。

右は東京日日新聞に載せてゐた所の話であるが子供室についての面白い經驗であります。大人が

子供の生活をよく理解せぬ譯でもあるまいが、大人の都合から割り出して一切子供を律し子供室を大人の室からかけ離れたところに設けるのが普通であります。元來家庭は子供本位にあるべきものでせう。鳥の巢は卵を産み雛を育てる所でありませう。獸類の棲む所も實は哺乳の場所でありませう。人類に於ても家庭は育児の場所で家庭内は悉く子供室となるのが自然であるといふ位であります。それを考へると子供室を別に設けることさへ不合理なのに更に居室から離して子供室を置くな

どは至極不自然といはねばならぬ位であります。如何にも極端なやうですが今日の家庭はあまり大人の生活を本位として子供の生活を犠牲になすやうに分化してゐると思はれます。何とかもつと子供本位の家庭生活とならずとも、せめて家庭には子供が家庭に於て楽しく善良に成育する様に努めた生活でありたいと希ふのであります。子供の生活のため全然大人の生活を無視せよとは申しませんが今日の家庭生活が一切萬事大人本位の誤なることに少くとも覺醒したいと望むのであります

幼児を入園させて

母の一人

今年四月子供を附屬幼稚園に入れます際は醫者がかなり強硬に反對致しましたし親類の者等も餘

り賛成いたしませんでしたので、親として幾分躊躇もいたしましたが、思ひ切つて願書を出しまし